

## にいがた市民大学について（参考）

### 1 現行の講座形式について

市民の高度で専門的な学習要求に応えるために平成 6 年 9 月に開設し、テーマ別に前期は 1 講座につき 10 回の講義形式、後期は 5 から 10 回までのゼミナール形式で実施。

※平成 26 年度（第 20 期）には講座数を 7～8 から現在の 5 講座に変更

平成 30 年度に募集人数を 70 から 85 人に変更

#### (1) 市民大学の性格

- ・ 学習意欲のある全ての新潟市民に開かれ、市民の自己教育力を高める場とする。
- ・ 多様な分野の精選された専門的な内容を系統的・継続的・実践的に学習し、その成果が市民の自主的活動につながる場とする。（自主サークル化の支援）
- ・ 時代と社会の要請に即するとともに、新潟の地域性や方向性を考慮したテーマや課題を掘り起こし、多様な学習機会を提供する場とする。

#### (2) 開設コースとねらい

現代の社会問題	現代社会が持つ今日的テーマについて多面的に学び考える
人間理解	人間の本質や人文科学的な事柄について学び考える
新潟学	新潟という地域を理解し、これからの新潟について学び考える
生命・自然科学	生命、自然現象や科学技術などの事柄について学び考える

#### (3) 期間・回数等

	期 間	回 数	学習方法	定員	受講料
前 期	6 月～9 月	10 回	講 義	85 人	10,000 円
後 期	10 月～翌 2 月	5 回～ 10 回	ゼミナール	20 人	ゼミ回数 ×1,000 円

## 2 受講状況や業務状況などについて

### (1) 受講状況について

① 新潟学については、市民の関心が継続して高い。

H27 年度「和食を知る」（市民提案）141 人、新潟 150 年史：その世界的位置 103 人

H28 年度「女性の歴史と新潟」84 人、H29 年度「新潟の川・潟とくらし」74 人、

H30 年度 開港 150 周年記念 開港都市に選ばれた「新潟」128 人

R 元年度「日本酒学への招待」151 人

② 現在の社会問題に関するテーマについて関心が高い。

< ところ・健康に関するテーマ >

H29 年度「思春期・青年期・成人期のところの健康講座」90 人 ほか

③ 満足度の傾向について（満足、やや満足が全体の80%以上を目標）

<80%以上の講座（5講座中）>

平成28年度4講座（うち3講座は80%）、平成29年度3講座、平成30年度2講座

## (2) 受講者アンケートやセンターへのご意見について（一部抜粋）

- ① 系統立って学べるよう、講座の設定をしてほしい。
- ② 今回の「日常生活を…」講座は各回とも大変興味深かったが、全体を通してテーマが漫然としていた。
- ③ 講師の方の都合もあると思いますが、月に4回は厳しい（仕事を終えてからの参加となると…）ので、月2~3回に日程を組んでいただけると良いと思います。特に平日の夜間のコースとなると仕事の関係で出席できない日程がどうしてもできてしまいます。出来たら10回参加したいと願っています。また前期だけでなく、後期も含めた（1年間）講座もあっても良いと思います。
- ④ 前期講座の中に、グループワークのような講座を組み込めないだろうか（希望者のみ）。一方的に聞くだけでなく、意見交換（参加者同士）することで、より一層理解が深まり、仲間づくりの一助になると思う。
- ⑤ 講師が「大学で講義するようにやってほしいとのことなので…」と言われた回があったが、その方向性で良いのか？と感じた。
- ⑥ だんだんアカデミックになってきて、市立大学の1講座の体をなしてきた。市民大学は大学という名を付けているが、ユニバーシティでもカレッジでもない。もっと身近なものを取りあげれば良い。また、市民提案の採用を増やすべきだ。
- ⑦ 少し前NHKラジオ第2で「老前整理」について放送されていました。たいへん興味深かったです。こんな感じの衣食住など身近なテーマであまり難しくない分野の講座を受けてみたいです。
- ⑧ 一般市民に対する講演にも関わらず、専門的な内容になっているところが良かった。この部分「遠慮せずに」やっていただきたい。
- ⑨ これまでのような一般人を対象にしたものを主体にすべきだが、それに加えてもう少しレベルの高いもの（現在それに関連する仕事についている人が更に知識を深める、あるいはその道を目指す人にも役立つもの）もあっても良いのではないのでしょうか。
- ⑩ 昼間の講義があるとよいのではないか。
- ⑪ 勤務や子育てで10回の講義は難しい。
- ⑫ 25期目は理系の内容がない。
- ⑬ 講座の配布資料について、充実している回と不足している回があり、充実した資料に基づいた講座を期待する。（全講座複数あり）
- ⑭ プレゼン力も講師の力量の一つ。知識だけなら図書やネットで得ることもできるが、大学ならではの聴講者を引き込むような話をしてほしい。